

みしま



三島小の自慢は「よい歯」です。
(三島小学校校庭にて)

◎特集

よい歯の学校

三島小学校 2度目の日本一 P2

秋の叙勲

瑞宝単光章 久保田節子さん P8

平成19年度過疎地域自立活性化優良事例表彰

三島町が総務大臣賞 P9

11
2007

広報みしま No.176

よい歯の学校日本一
【その1】

全国平均の3分の1 虫歯がとても少ないのです



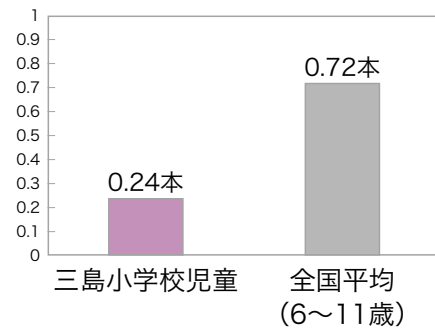
二度の日本一、十四年連続の受賞という実績を誇る三島小学校の歯科保健活動。その成果は歯科検診の結果に表れています。平成十八年度では、永久歯の処置歯（治療済みの虫歯）の本数は、全校児童で十九本。未処置歯（治療していない虫歯）は、たったの一本。処置・未処置を合わせると二十本で、一人あたり約〇・二四本でした。これは、平成十七年度の全国平均〇・七二本と比べて、三分の一という少なさです。また、永久歯に虫歯がない児童は七十六名で、全体の八九・四％。これも全国平均の七一・九％を大きく上回っています。

よい歯の学校表彰を主催する社団法人日本学校歯科医会では、

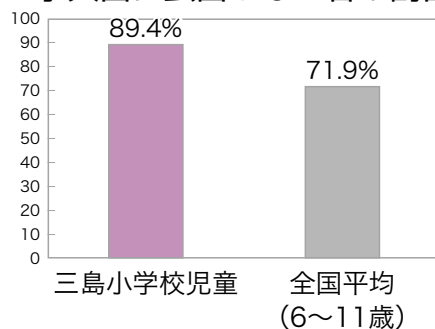
「三島小学校では、学校歯科医を中心として虫歯予防を徹底しており、先生方も歯科保健について研修しています。数値的にも歯の健康状態が非常によいことがわかります。レベルの高い歯科保健活動を長年行ってきたことが、全国で初めての二度目の大臣賞につながりました。」と評価しています。

Data 三島小学校児童の全国比較

1人あたりの虫歯の本数
(永久歯の処置歯+未処置歯)



永久歯に虫歯がない者の割合



(資料) 厚生労働省 平成17年度歯科疾患実態調査報告

三島小学校の評価のポイント 社団法人日本学校歯科医会

三島小学校では、学校歯科医の長年にわたる指導や、地域が連携した活動などがとても充実しており、特に6年生の歯型模型を作るという独自の取り組みや、歯の健康づくりを通じた家庭での生活習慣の見直しなど、学校と家庭が一体となった活動が高く評価されました。

三島小学校「よい歯の学校表彰」受賞歴

年 度	福島県内	全 日 本
昭和62年度	奨 励 賞	—
昭和63年度	奨 励 賞	—
平成元年度	—	—
平成2年度	奨 励 賞	—
平成3年度	奨 励 賞	—
平成4年度	奨 励 賞	—
平成5年度	奨 励 賞	—
平成6年度	優 秀 賞	—
平成7年度	優 秀 賞	—
平成8年度	最優秀賞	文 部 大 臣 賞
平成9年度	優 秀 賞	—
平成10年度	優 秀 賞	—
平成11年度	最優秀賞	—
平成12年度	努 力 賞	—
平成13年度	優 秀 賞	—
平成14年度	優 秀 賞	—
平成15年度	栄 誉 賞	—
平成16年度	優 秀 賞	—
平成17年度	優 秀 賞	—
平成18年度	最優秀賞	—
平成19年度	優 秀 賞	文部科学大臣賞

三島中学校「よい歯の学校表彰」受賞歴

年 度	福島県内	全 日 本
平成13年度	努 力 賞	—
平成14年度	奨 励 賞	—
平成15年度	優 秀 賞	—
平成16年度	優 秀 賞	—
平成17年度	最優秀賞	—
平成18年度	努 力 賞	—
平成19年度	努 力 賞	—

↑昼食後、全員が自分の鏡を持って、
口の中を見ながら行う歯みがき。
(1年教室にて)

◎特集

よい歯の学校

三島小学校 2度目の日本一

全国初の快挙です。

三島小学校は「よい歯の学校表彰」で、二度目の文部科学大臣賞を受賞しました。学校歯科医を中心とした五十年に及ぶ歯科保健活動、学校と家庭の連携による生活習慣の改善など、地域ぐるみの活動が高い評価を受けました。

三島小学校は、第四十六回※全日本学校歯科保健優良校表彰(よい歯の学校表彰)で、最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました。平成八年にも当時の文部大臣賞を受賞しており、二度の受賞は全国でも初めてのことです。福島県内の表彰では、平成六年から今年まで十四年連続で入賞しており、平成八年、十一年、十八年には最優秀賞、十五年には栄誉賞に輝くなど、三島小学校の歯科保健活動は長年にわたり高い評価を得て、素晴らしい伝統となっています。また、三島中学校も平成十五年からは最優秀賞を受賞しています。

子どもたち、先生方、保護者の皆さんが一体となって取り組む、よい歯の学校日本一の活動を取りました。

※全日本学校歯科保健優良校表彰(よい歯の学校表彰)

児童生徒の歯・口の健康に対する理解と関心を高めるとともに、総合的な健康観の育成を目指すもので、各都道府県において優秀と認められた学校が、全国表彰に推薦される。社団法人日本学校歯科医会の主催。



↑二瓶良都くん（手前）
「最後にお母さんがみがいてくれるよ。」
二瓶北都くん（中央）
「白い歯になるようにみがいているよ。」
二瓶世鈴奈さん（奥）
「歯石のたまりやすいところをよくみがくようにしています。」

② in the home

基本は家庭 正しい歯みがきを習慣に

虫歯になりやすい…でもあきらめず

西方地区の二瓶勤さん・聡子さんご夫妻のお宅は、四世代九人の大家族。お子さんは世鈴奈さん（六年生）、北都くん（三年生）、良都くん（五歳）の三人兄弟です。

「三人とも乳歯は虫歯だらけ。歯医者さんからも虫歯になりやすいと言われました。でもあきらめずに歯みがきをさせて、歯医者にもまめに行って歯石をとるなどの予防をしています。」と話す聡子さん。

「私も夫も、歯では苦い経験をしているので、子どもにはそういう思いをさせたくないんです。寝る前にしっかりとみがかせて、まだ小さい良都は仕上げみがきをしてあげています。六年生の世鈴奈は永久歯には虫歯がありません。」

虫歯は、もともと人によりなりやすさがある。虫歯になりやすい傾向がある二瓶さんのお宅でも、あきらめずに正しい歯みがきを習慣化することで、強い歯を育てることを目指しています。

学校の活動から 家庭生活の改善へ

三島小学校では、保健だよりによって学校での活動をわかりやすく家庭へ伝え、家庭生活の改善を促しています。また、保健委員会の児童が主体となって実施している「よい歯の教室」では、虫歯が一本もなく歯ぐきも健康な児童を表彰する「よい歯のプリンス・プリンセス賞」や、学校歯科医の講話、歯の役割についての児童の学習発表などを行っています。そのほか、児童だけでなく保護者の方々からも募集する「よい歯の標語」などにより、歯の健康づくりを啓発しています。

平成十九年度「よい歯の標語」

《児童最優秀作品》
よくかめばバランスとれた
いいからだ
四年 五十嵐 基くん
（大谷）

《保護者最優秀作品》
良くかんで頭と歯にも
いい刺激
二瓶 勤さん（西方）

よい歯の学校日本一 【その2】

学校と家庭が連携 地域ぐるみで歯の健康づくり

マンツーマンで 歯みがき指導

① at the school

小規模校だからできる 徹底した歯の健康教育



↑保健室で児童に正しい歯みがきを教える小野里麻紀子先生（右）。歯垢染色剤を使って、みがけていない箇所を一人一人チェックするなど、丁寧な指導を行っている。

お昼休みは、子どもたちにとって遊びたい時間。でも少し我慢して、歯みがきの練習をしている子どもたちがいました。歯科検診の結果をもとに、児童が三、四人ずつ保健室に集まって、保健担当の小野里麻紀子先生が一人一人に丁寧に歯みがきを教えています。

「歯垢染色剤による染め出しを行って、正しい歯みがきを教えています。また、学期に一度、歯科衛生士の方の協力を得て全体指導を行っています。小さいうちは乳歯だからと安易に考えると、永久歯の健康に影響します。歯の病気は、様々な体の病気を引き起こします。保護者の皆さんには週に一度でもいいから、お子さんの口の中を見てあげてほしいです。」

と小野里先生は話します。

「歯みがきをしているようにでも、みがけていない場合があります。小さいお子さんは特に仕上げみがきが大切です。また、保育所・小学校・中学校で同時に年三回行っている『生活リズム調べ』では、歯みがきだけでなく、就寝や朝食、排便など、家庭での生活習慣を見直しています。生活習慣が良好であれば免疫力がつき、体全体の健康、そして心の健康につながります。家

自分の歯型を作り 大切さを実感

三島小学校では、学校歯科医を務める栗城昭吉先生（栗城歯科医院）のご厚意により、六年生一人一人の歯型模型を作っており、今回の「よい歯の学校表彰」でも高く評価されました。鏡では見えにくい歯並びを目で見て学ぶと共に、世界に一つしかない自分の歯の大切さを実感する機会となっています。



↑三島小学校の児童用の水道は蛇口の数が多く、みんな歯みがきがしやすい造りになっている。

三島小学校児童の皆さん Interview



一年 大竹彩花さん（滝谷）
「毎日よく歯をみがいて、大人の歯を大事にしたいです。」



一年 長谷川百合香さん（川井）
「奥歯をよくみがくようにしています。」



二年 大竹昌寿くん（滝谷）
「歯ブラシの毛先を上手に使ってみがいています。」



三年 小林美幸さん（大登）
「力を入れすぎないようにして、歯の内側をよくみがくようにしています。」



三年 細堀 華さん（中平）
「力を入れすぎないように気をつけて、歯ぐきもこまめにみがいています。」



六年 小平達也くん（西方）
「今まで一度も虫歯にならなかったことがありません。毎日歯みがきをして、これからも虫歯ゼロを目指します。」

Special interview



子どもたちのために 進化する教育を

岡村 三夫 校長先生

おかむら みつお 52歳 三島小学校長

2度の大臣賞受賞は全国で初めてということで、本当に嬉しく思っています。なによりも栗城先生の50年にわたる学校歯科医としての活動によって、三島の子どもたちの歯の健康が守られてきたことが受賞につながったことは言うまでもありません。栗城先生には、児童だけでなく、時には我々教職員も診ていただいています。また、栗城先生のご厚意で、1年生には歯みがきに使う鏡をいただき、6年生には歯型模型を作っていただいています。他校ではできないことです。本当に感謝しています。

今回特に評価された点は、「三島町小中合同保健委員会」で行っている「生活リズム調べ」など、地域連携の取り組みだと思います。このような町全体の活動も、ほかにはありません。いろいろな場で、子どもたちや保護者の方々に歯の大切さ、生活リズムの大切さを伝えることで、家庭での改善意識が芽生えてきたと感じています。

今後は、保育所時代からよい生活リズムを身につけ、小学校、中学校につなげていくことが重要です。そのためには、三島の子どもたちをどのように育てていくのかというビジョンを、もっと具体的にわかりやすく公表することで、行政と学校の連携や住民参加を促し、毎年評価して、『進化する教育』を行うことが大事だと思います。

学校教育の現場では、歯の健康づくりも含め、総合的な学習能力を引き出す教職員の力量が求められています。子どもたちは、先生の一声で大きく変わります。我々教職員も共に学びながら、子どもたちを導くことができるよう努力していきます。

●取材を終えて

▼三島小学校の歯科保健活動が、こんなにも充実しているとは正直知りませんでした。子どもたちが、一人一枚鏡を持って歯みがきする光景にびっくりしました。カメラを向けると、「ほら、こんなに上手にみがけるよ」とアピールしてきます。子どもたちは、虫歯の怖さ、歯みがきの大切さを、ちゃんとわかっていました。先生方も、児童一人一人に対して、本当に丁寧に教えています。▼五十年以上、三島で育ったすべての子どもの歯を診てこられた栗城先生。私も小学生時代、旧西方小学校での歯科検診で、栗城先生に診ていただいたことを覚えていいます。「歯が悪くなると食べられなくなるから、体が病気になる」と教えられ、子ども心に怖くなった記憶があります。子どもに対して情熱を傾け、歯の病気の恐ろしさを教えてくださったのだと、今になって感謝しています。▼勉強するにも運動するにも、歯の健康は欠かせません。「よい歯の学校」の活動は、すべての教育の土台となっていると感じました。

◎特集 よい歯の学校 終わり

Special interview



歯の健康を通して 命のありようを 見つめてほしい

栗城 昭吉 先生

くりき しょうきち 78歳 歯科医

宮下に歯科医院を開業し、今年で58年目になります。昔は歯の健康意識が一般的に低く、ブラッシング（歯みがき）の習慣がありませんでした。だから、虫歯を早く見つけて早く治すということが第一でした。今は虫歯予防の習慣が広まり、虫歯にならないように正しいブラッシングをすることが第一となっています。

年間20回ほど学校に行き、歯科検診や歯の健康に関する活動を行っています。歯科検診は通常年1回ですが、三島では年2回行っています。先生方や保護者の方々の歯を診ることもありますよ。子どもも大人も、地域みんな歯の健康づくりを行う姿勢が大切だと思います。

今、子どもを取り巻く家庭のあり方が問われています。食生活の悪さ、睡眠不足など、家庭生活の乱れは様々な生活習慣病を引き起こします。虫歯もその一つ。子どものしつけの基本は家庭にあり、責任は大人にあります。テレビもだらだら見ていてはだめ。保護者の皆さんも、子どもと一緒に生活を見直し、子どもたちが健全に成長できる環境を作ることが最も大切です。

都市部では、連続して子どもが自ら命を絶っている現実があります。いつかこの山村にも、悪い風が吹いてくるのではないかと危惧しています。命の大切さを感じてほしいという思いから、児童の歯型模型作りを始めました。成人したとき、社会に出たとき、結婚したとき、子どもができたとき、世界に一つだけの自分の歯型を思い出して、命のありようを見つめてほしいと思います。

歯みがきの個人指導も歯型模型の作成も、小さな学校だからこそできることです。また、この小さな町にとって学校の存在はとても大きく、家庭への影響力も強いと思います。学校と家庭の連携が非常に大切です。

児童アンケートで、学校自慢の1位は「よい歯の学校」と聞き、非常に嬉しく感動しました。ありがたいことです。歯の大切さは、命の大切さ。これからも多くの子どもたちに伝えたいと考えております。

1950年、宮下に栗城歯科医院を開業。当時から旧宮下小学校・中学校、旧西方小学校・中学校の学校歯科医を務め、50年以上、三島の子どもたちの歯の健康を守っている。2世代、3世代にわたり、栗城先生に診てもらっている町民も多い。

祝

秋の叙勲

瑞宝単光章

「奥会津編み組細工」伝統工芸士

久保田 節子さん



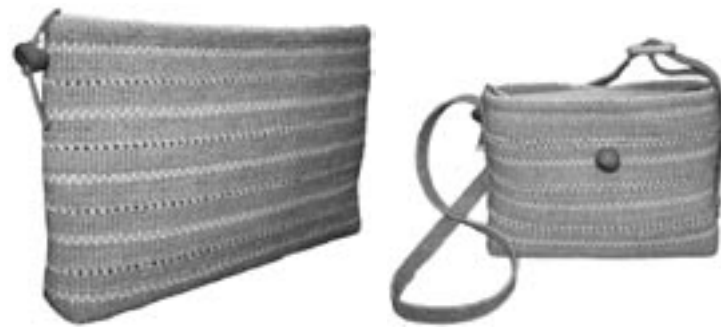
「本当におかげさまで五十年間やってきました。ありがとうございました。」
秋の叙勲で瑞宝単光章の荣誉に輝いた久保田節子さん、謙虚に感謝の気持ちを語られました。
「子どもの頃、母が作るわらじなどを見様見真似で作ったら、母がほめてくれて、それが嬉しくてものづくりが好きになり、今まで作り続けてきました。」
昭和四十七年、町で初めて開催された観光土産品コンクールに「ミニゲンベ」を出品。「あの頃は自分で宮下に行くことができなくて、行ける人に作品を持っていつてもらいました。」
と昔を振り返ります。生活工芸運動の推進と共にヒロロ細工の第一人者として活躍され、その洗練された作品は、皇后美智子様、皇太子妃雅子様の目にとまるほど。節子さんに習った方々も、今では名人となっています。
今年二月、東北では女性初の伝統工芸士に認定され、積み重ねてきた半世紀の努力が花開いたこの度の叙勲。本当におめでとうございました。

久保田 節子

PROFILE

くばた せつこ 76歳 入間方

昭和6年生まれ。奥会津編み組細工（ヒロロ細工）職人。平成2年から8年間、生活工芸館の編み組指導員を務め、当時研究員として勤務されていた西牧研治氏と共に、ヒロロバッグのデザイン開発に携わり、製作工程の基礎を築くなど、生活工芸運動の発展にご尽力されてきた。今年2月、東北では女性初の伝統工芸士となる。



↑ヒロロ抱えバッグ 久保田節子作
（皇后美智子様お買い上げの品と同型）

↑ヒロロショルダーバッグ 久保田節子作
（皇太子妃雅子様お買い上げの品と同型）

※これらの節子さんの作品は、生活工芸館に展示されています。

平成十九年度過疎地域自立活性化優良事例表彰

三島町が総務大臣賞

地域の伝統を守り育てる
住民参加のまちづくり
これからも未来へ向けて

三島町は、平成十九年度過疎地域自立活性化優良事例表彰で総務大臣賞を受賞し、十月二十五日、福岡県朝倉市で行われた「全国過疎問題シンポジウム」で表彰されました。この表彰は、地域産業、地域文化等の振興による過疎地域の自立的な地域社会の構築を目指した事例を評価するもので、三島町を含め全国で八団体が表彰されました。
少子高齢化、経済の低迷が続いている中で、今までのまちづくりが評価された今回の表彰は、山村に住む私たちの誇りとなる栄誉です。今後も、住民参加と地域資源の活用を基本に、協働のまちづくりを進めていきたいと思います。



↑総務大臣表彰を受ける齋藤茂樹町長
（福岡県朝倉市 サンライズ杷木にて）

《総務大臣賞を受賞した三島町の過疎山村振興事例》

ふるさと運動から生まれたものづくり・人づくり・町づくり ～都市との交流と住民主体の町づくりを目指して～

評価のポイント（総務省）

三島町は、良質な会津桐の産地として知られ、昭和49年より全国に先駆けて都市との交流を目的とした「ふるさと運動」をスタートさせた。住民自らが地域づくりに取り組み、それに賛同する首都圏の特別町民と理想のふるさとづくりを行うもので、この運動は全国各地の特別町民制度やふるさと小包誕生のきっかけとなった。こうした町づくりの取り組みにより、暮らしの中から生まれた伝統的なものづくりの技を現代の生活に活かしていく「生活工芸運動」、数々の伝統行事を集落の誇りとして守り、連帯意識の高揚を図る「地区プライド運動」等を展開している。

国の伝統的工芸品にも指定されたヒロロ、マタタビ、山ブドウを材料とした「奥会津編み組細工」は、高齢者を中心とした町民によって盛んに取り

組まれており、今年で21回目の開催となった「ふるさと会津工人まつり」には約1万人の来場者が訪れ、ものづくりを通じた交流が展開されている。さらに、全国各地から約150人の工人が手作り品を持って三島に集い、展示販売を行っている。また、「桐の里みしま工人郷」として町全体で約40軒の工人が自宅を工房・ギャラリーとして開放している。

このほか、特産の地鶏を堪能できる「会津地鶏まつり」、今年35回目となった「雪と火のまつり」等、特産品や伝統行事を活かしたイベントを実施し、都市との交流を継続的に展開している。

このように三島町では、先祖から受け継いできた伝統を風化させることなく活動を続けており、今後も安定的な取り組みが期待される。

三島中学校特設合唱部は、混声合唱、女声合唱、男声合唱をそれぞれ披露した。混声では「めぐりあい」「きみ歌えよ」、女声では「火の山の子守歌」、男声では「桜」「はるかな友に」「いざたて戦人よ」を合唱し、心のこもった歌声で会場を包んだ。



共に語ろう 共に学ぼう 2007 三島町文化祭

三島町文化祭は11月3日、文化の日、町民センターで開催されました。大ホールでは小中学生の「青少年の主張」や合唱が発表されたほか、各分野で活躍された方を表彰する「生涯学習文化表彰」では、第56回福島県下中学校英語弁論大会創作の部に出場した大竹重則くん（三島中3年・滝谷）が表彰されました。町民センター内では、絵画や書、写真、生け花など、町民の皆さんの力作が多数展示されたほか、カレーライスやけんちゃんそばなどの食堂、手芸教室、切り絵教室、昔語りなども行われました。また、町で取り組んでいるメタボリック症候群改善のための「スッキリ・サラサラ教室」の成果なども掲示され、健康意識の高揚を促しました。そのほか、素謡・仕舞、舞踊やカラオケ、神楽などの芸能発表も行われ、役場前では会津地鶏の焼き鳥や農産物などが販売されました。

多くの町民の皆さんが訪れ、すばらしい発表や作品の数々にふれた文化の日。年齢に関係なく、生涯続く学びの場として、これからも様々な文化活動を楽しみ、健康で生きがいのある暮らしを目指していきましょう。

福島県下中学校英語弁論大会に出場したことにより、生涯学習文化表彰を受ける大竹重則くん（三島中3年・滝谷）。



青少年の主張

5名の小中学生の皆さんが、学んだことや日頃感じていることについて発表しました。

諏 江 霞 純さん（三島小5年）

「言葉の力」



上 原 英玲奈さん（三島小6年）

「よりよい三島町に」



長谷川 絢 美さん（三島中1年）

「大切にしなければいけない生命」



阿 部 茜さん（三島中2年）

「大切にしたいもの」



目 黒 秀 昂くん（三島中3年）

「身体の健康について」



会津の匠たちの技が集結 第3回会津の編み組工芸品展

最高賞は五十嵐三美さん
第3回会津の編み組工芸品展は、交流センター山びこで十月二十・二十一日の二日間開催されました。三島町の「奥会津編み組細工」をはじめ、竹、あけび蔓、マタビ蔓、山ブドウ蔓皮など、自然素材の編み組工芸品だけを全会津から集めた展示会です。（奥会津三島編み組品振興協議会の主催。三島町の共催。福島県会津地方振興局、福島民報社などの後援。）
作品は審査が行われ、山ブドウ背負い籠を出展した五十嵐三美さん（大谷）が、最高賞の福島県会津地方振興局長賞を受賞されました。会場には、県内外から大勢の人々が訪れ、先人から受け継いできた伝統的なものづくりの技と、自然素材の素朴な魅力にふれました。

第3回会津の編み組工芸品展受賞者名簿（敬称略）

〔応募者数〕105名 〔作品総数〕522点

賞	受賞者名	作 品 名	住 所
福島県会津地方振興局長賞	五十嵐 三 美	山ブドウ背負い籠	大 谷
会 津 若 松 市 長 賞	斎 藤 クニイ	山ブドウ玄関マット	会津若松市
喜 多 方 市 長 賞	須 藤 文 男	茶 碗 入 れ 籠	喜 多 方 市
北 塩 原 村 長 賞	五十嵐 怜	山ブドウ手提げ籠	北 塩 原 村
猪 苗 代 町 長 賞	山 本 正 子	アケビ手提げ籠	猪 苗 代 町
会 津 坂 下 町 長 賞	太 田 清 仁	平 ざ る	会津坂下町
柳 津 町 長 賞	伊 東 俊 正	腰 籠	柳 津 町
三 島 町 長 賞	五十嵐 ハナ子	巾 着	浅 岐
金 山 町 長 賞	角 田 恵 治	果 物 ざ る（中）	金 山 町
昭 和 村 長 賞	斎 藤 孝 子	アカソ手提げバック	昭 和 村
只 見 町 長 賞	菅 家 文 保	マタタビざる（特大）	只 見 町
福 島 民 報 社 賞	佐 藤 平 喜	米 と ぎ ざ る	昭 和 村
福 島 民 友 新 聞 社 賞	若 林 和 子	ヒロ口手提げバック	浅 岐
奥会津三島編み組品振興協議会長賞	野 中 勇	鶴 亀	会津美里町
奥会津三島編み組品振興協議会長賞	五十嵐 喜 良	山ブドウ手提げ籠	名 入
奥会津三島編み組品振興協議会長賞	久保田 昭 一	山ブドウ手提げ籠	入 間 方
奥会津三島編み組品振興協議会長賞	小 堀 千加子	山ブドウ手提げ籠	西 方
奥会津三島編み組品振興協議会長賞	山 内 善 次	飾 壺	昭 和 村

スポーツ感覚で「輪投げ」楽しむ 三島町老人クラブ

10月24日、町民センターで老人クラブの皆さんが「輪投げ」を楽しみました。両足を床につけて、かかとを上げずに投げるというルールがあります。9本の棒があり、縦、横、斜めに3つ並んで入れば、それぞれ30点。9本すべてに入れば、300点満点です。参加者の皆さんは、新しいスポーツ感覚の輪投げに何度も挑戦して、楽しい時間を過ごしました。



↑輪投げを楽しむ参加者



↑コミュニティバス「宝くじ号」

宝くじの助成でバスを整備しました コミュニティバス「宝くじ号」

日本宝くじ協会の「平成19年度各種施設に対する助成」により、町のバス（コミュニティバス宝くじ号・29人乗り）を整備しました。今まで使用していたバスは、車体が老朽化し、排ガス規制にも対応していないため首都圏への乗り入れができない状態でしたが、新しいバスは対応しています。

このバスは、町の行事や社会教育の振興、住民福祉の推進のために活用します。

福島行政評価事務所の「出前授業」 三島小学校で実施

11月16日、三島小学校で6年生を対象に、福島行政評価事務所による行政についての「出前授業」が行われました。会津地域では初めて。県内でも2番目の実施です。この「出前授業」は、小学生の頃から行政に関心を持ってもらおうと共に、行政評価事務所の仕事や行政相談委員について理解してもらうことを目的としたものです。

授業は、はじめに行政評価事務所の高崎所長が、行政の仕組みと行政評価事務所の仕事について、プロジェクターを使ってわかりやすく説明しました。その後、町の行政相談委員 小柴ヨシノさん（西方）が、町内で相談を受けて実際に改善したことなどを話題にしながら、相談委員の仕事について説明しました。6年生の皆さんは、クイズや質問に答えながら熱心に学び、行政を少し身近に感じる事ができたようです。



↑福島行政評価事務所による出前授業



↑小柴ヨシノさんが行政相談委員の仕事を説明

保健推進員の方々がグループに分かれて話し合った研修会(右)
ファシリテーターとして研修会を進行した五十嵐乃里枝さん(左)



歳をとってもいきいきと暮らすには？

保健推進員の役割を考える《三島町保健推進員研修会》

10月24日、町民センターで三島町保健推進員研修会が開催され、地域や家庭について考えながら保健推進員の仕事について話し合いました。昨年度まで行われた「健康・幸福な地域づくりの集い」のメンバー5名が進行役を担い、その一人の五十嵐乃里枝さん（大谷）が代表としてファシリテーター（効果的な話し合いを促す人）を務め、各地区の保健推進員の皆さんが意見を出し合いました。

「歳をとっているからといって変な目で見られることもある。自分が80歳になった時が不安だ。」
「高齢者の方々がどんな暮らしをしているのか、もっと把握しなければ。」
などの意見が出され、体が弱っても心豊かな生活を送れる地域のあり方、保健推進員の役割について考えました。この研修会は今後も継続して行われ、健康で幸福な地域づくりを目指していきます。



戦後62年 永久の平和祈る 三島町戦没者慰霊祭

10月30日、町民センターにおいて三島町戦没者慰霊祭が行われ、遺族の方々が出席されました。遺族会会長の小柴修一さん（西方）は、「肉親を失った心のむなしさ、何か満たされない気持ちは今も変わりません。命の尊さを忘れず、慰霊を続けることで、永久の平和を守らなければなりません。」と述べられ、戦没者の御霊に深い哀悼の意をささげました。



三島音頭の石碑建立 作詞の五十嵐健郎さん

『桐の花咲く三島の春は〜』で始まる三島音頭。この歌を作詞した五十嵐健郎さん（大石田）は、自宅前に歌詞を刻んだ石碑を建立しました。三島音頭の歌詞は、町の募集に健郎さんが応募し採用されたもので、運動会などで踊りの振り付けと共に親しまれてきました。

「これからも忘れないように石碑を建てました。」と健郎さん。歌詞のとおり、みんな楽しく輪になって、明日のふるさとをつくりましょう。



連載「三島人」

Vivid person

②

鍛冶屋人生六十年 孫の成人式まで続けたい 西郷義正さん

さいごう よしまさ 七十五歳 宮下

「鍛冶屋は親父の代からです。ほかの弟子と共に十年間親父に習い、包丁、かま、なた、まさかりなど、農家の生活で使う刃物は何でも作ってきました。」と話す義正さん。尋常小学校を卒業後、十五歳の時から鍛冶の仕事をしてきました。昭和三十五年頃から安い製品が流通し始め、仕事が減ってしまいました。最近注文が増えているそうです。

「てわつさの里が始まって、町のパンフレットや雑誌などに載るようになってから、新潟や山形など遠くからも注文がくるようになりました。仕事場を見に訪れる方も増え、刃物が出来上がるまで何時間も見ていく方もいますよ。鍛冶は気持ちが落ち着いていなければ、いい物はできません。気が向かない時や忙しい時に急いでやってもだめ。じっくり集中してやります。」

毎朝の日課は、二十年もいっしょにいる愛犬、西郷コロ君との散歩です。

「こんなに丈夫な人、同年代にはいませんよ。コロのおかげですね。」

と妻の良子さん。山で熊が出た時、コロ君が吠えて追いかけてくれたことも。

離れて暮らす息子さんに買ってもらう携帯電話で、小学一年のかわいいお孫さんの動画を見て、微笑む義正さん。

「孫の成人式まで、鍛冶を続けたいですね。」

お知らせ 箱膳食育イベント in 三島町



日本のココロを、いただきます。
～『箱膳』スタイルを通して、地元の食文化を活かす～

昭和初期頃まで、自分専用の飯茶碗、汁碗、箸などを入れた箱が家庭で使われていました。それが「箱膳」です。このイベントでは、伝統的な食の作法を学びながら、地域の食文化を活かした料理を堪能します。

○日時 12月9日(日) 10:30～12:30

○場所 三島町交流センター山びこ

○参加費 大人1,500円 子ども800円

※定員20名様

問 申込 三島町エコ・ミュージアムプロジェクト事務局
(役場 産業建設課 産業係) Tel 0241-48-5533

主催/NPO法人えがおつなげて

平成19年度農林水産省食育モデル民間団体実践活動事業

歳時記 萌の会

只見川秋の野抱きて動かざる
動くもの何も見えずに刈田かな

宮下 志田 たつの

もみじ葉を拾ふて母の七回忌
赤とんぼ吾子の指先中継所

宮下 諸井 まさ子

人口と世帯 11月1日現在(住民基本台帳)

人口	2,227人(-6)	人の動き	出生1人
(男)	1,046人(-4)		死亡1人
(女)	1,181人(-2)		転入1人
世帯数	881世帯(-2)		転出7人

広報 みしま 11月号 No.176

発行日 平成19年11月22日

編集 三島町役場 総務課 企画財政係
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
Tel 0241-48-5515

ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>